

潮流の変化に対応し、 力強く前進を



神奈川県内陸工業団地協同組合
理事長 歳原博幸

組合員並びに関係各位の皆様、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
はじめに、元日に発生した令和6年能登半島地震で被災された方々に心よりお悔やみとお見舞いを申し上げます。一日も早い被災地の回復と復興を願っております。

昨年、長期化するロシアによるウクライナ侵攻やイスラエルでの紛争、中国経済の減速、原油や原材料費の高騰による物価の上昇、気候変動

新たな成長のフェーズへ踏み出す 取り組み推進で付加価値の向上

パリゼーションの潮流や地政学バランスに大きな変化が継続する中、秋のアメリカ大統領選、日米の金融政策（金利）、中国経済の動向なども含め、引き続き不透明感が続くのだろうと思えますが、新たな成長のフェーズへと力強く踏み出し前進できる工業団地として、今年は何種取り組みを推進し、内陸工業団地の付加価値の向上に努めてまいります。



最後に、組合員の皆様・関係各位のご協力をお願いするとともに、皆様のご健勝とご多幸を心から祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。

だんち
だより



第101号

2024年(令和6年)1月31日発行



謹賀新年

の影響などを要因とする市場経済の疲弊を強く感じた年でした。

一方、コロナ禍の収束により、行事などが再開し、人と直接会うことの喜びを再認識できた年でもありました。テクノロジーの面では、生成AI、ChatGPTなどという革新的な技術の登場が、今後の社会に大きな変化を予感させられ、その利活用が当然必要となると思いますが、直接の意見交換、対面での議論に勝るものはないと、改めて実感しています。

こうしたなか、当組合の活動としては、昨年6月の通常総会が新団地会館での開催ができ、野球大会や共同防災訓練など、可能な事業を実施してまいりました。賀詞交換会についても先日、新団地会館で開催できました。

また、今年の春には駐車場をはじめ外構工事など完全に完成し、新会館の機能が十分に発揮できますので、組合員の皆様の活動拠点として活用いただきたいと思います。
長年続いてきたグロ

年頭のご挨拶

神奈川県中小企業団体中央会
会長 森洋

会員並びに関係者の皆様、明けましておめでとうございます。お健やか

に令和6年の新春をお迎えになられたこと、心よりお慶び申し上げます。
3年に及んだコロナ禍も「5類」移行により、ようやく日常が戻りつつあり、中小企業を取り巻く経済環境は、海外経済の回復を受けて輸出が持ち直しに向かい、企業の設備投資意欲も強い状態が続いています。さらに自動車生産の回復やインバウンド需要の増加、また世界的な半導体市況にも好転の兆しが見られるなど、景気の回復が感じられる一年でありました。

しかしながら、その一方でエネルギーや原材料価格の高騰と、コスト増の価格への転嫁が引き続き、中小・小規模事業者

にとつて大きな課題となつております。特に人件費やエネルギーコスト、2次、3次下請けといった取引における価格転嫁が進んでおらず、会員の皆様からは「収益の改善が進まない中で、賃上げや人材確保への対応に苦慮している」といった切実な声が届いております。
官民挙げて「取引価格の適正化」を進めるとともに、生産性向上の取組みにより収益力を高め、賃上げや人への投資につながる、持続的、構造的な成長に向けた好循環を早急に作る必要があります。

さらに、本格化するゼロ融資の返済に伴う資金繰りや経営者の高齢化が進む中で、県内企業の7割近くが後継者未定ともいわれる事業承継の問題、さらには、このままでは最大4億トンの輸送能力不足が生じると試算されている2024年問題など中小・小規模事業者を取り巻く課題は山積みです。

こうした課題を乗り越えていくために、本会では支援機関、金融機関、行政等と連携しながら、人材の確保・定着や生産性向上への支援に最優先に取り組むとともに、業務運営の見直しも含めた働き方改革の推進や、DXの活用による業務の効率化、円滑な事業承継など、組合の更なる組織力の強化と経営改善に向けた支援を行ってまいります。また中小・小規模事業者の脱炭素化を推進するため、行政や専門家と連携し「中小企業の脱炭素化推進モデル」の構築に向けた取り組みを進めてまいります。

新年におきましても、引き続き現場の声を大切にしながら、これまで以上に「頼られる中央会」となるよう、会員の皆様に寄り添った伴走支援の充実・強化に取り組んでいく所存です。

結ぶに、会員の皆様の昨年に変わらぬご支援、ご協力をお願い申し上げます。本年が皆様にとつて、干支にふさわしい上昇・発展の年となりますようご祈念申し上げます。



山積みです。

山積みです。

一致団結、さらなる発展を誓う

令和6年1月24日 新年賀詞交換会

令和6年の始まりを祝う新年賀詞交換会を昨年6月竣工しました「内陸工業団地新会館大会議室」で1月24日に開催いたしました。ご来賓の皆様をはじめ、約80人の皆様にご参加いただき、新年を祝う歓談の場となりました。

この日は、日頃から当組合活動の事業運営に多大なご支援をいただいている行政の首長をはじめ、関係機関の皆様が来場されました。ご来賓を代表して、厚木市長の山口貴裕様、愛川町長の小野澤豊様、衆議院議員の義家弘介様、衆議院議員の赤間二郎様、県議会議員の難波達哉様からお言葉をいただきました。皆様は1月1日に発生した能登半島地震被災者への思いを述べられ、会場の皆様と共有しました。そして公益社団法人厚木法人会会長の黄金井康巳様のご発声による乾杯で歓談に入りました。当組合活動の事業運営に多大なご支援をいただいている皆様と、親交を深めるひと時でした。



乾杯の発声を務めた
黄金井康巳厚木法人会会長



出席者の前であいさつをする
歳原博幸代表理事



小野澤豊愛川町長



山口貴裕厚木市長



難波達哉県議会議員



赤間二郎衆議院議員



義家弘介衆議院議員



事務局より



新年明けましておめでとうございます。昨年5月8日より、新型コロナウイルス感染症が5類に位置づけられました。長い間続いたイベントの制限や行動制限といった強い措置はなくなり、コロナ前に戻つつあります。当組合も賀詞交換会を昨年6月に竣工した新会館大会議室で開催することが出来ました。お忙しい中、多くの関係各所からご来賓いただき親交を深めることができました。

今年は元日に発生した能登半島地震において、多くの国民が心を痛めました。関係機関は被災地へ赴き、被災者の救済や復興に向けた活動をされています。私たちも思いを共有し、少しでも助けになるよう取り組んでいきたいと思えます。

今年の春には、新会館の駐車場整備などが終わり、完全な完成を迎えることで、組合員の活動拠点として機能が発揮出来ることと思えます。事務局一同、組合の発展と組合員企業の皆様のご繁栄のために努めてまいります。

災害に備えて共同防災訓練を実施

2023年11月22日

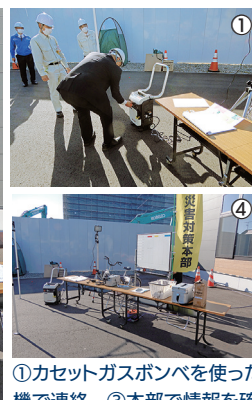
当組合では、今年度も共同防災訓練を昨年の11月22日に実施いたしました。

この日は、午後1時10分に大地震が発生した想定で訓練を実施いたしました。密閉空間を避け、団地会館駐車場に災害対策本部を設置。厚木市や愛川町の危機管理担当課との無線連絡のほか、会館建設に伴い新団地会館に移した資機材の確認や消費期限が近づいた保存食糧の試食を行い、カセットガス

ボンベを使用する発電機の動作確認や、非常照明の点灯などをチェックしました。

また、団地内を8つの地域に分け、それぞれの地域で想定上の被災状況報告など実際に無線機を使用して行いました。

コロナ禍以降、規模を縮小しての訓練実施ですが、当組合では今後も災害対策についての体制づくりや情報発信に努めてまいります。



①カセットガスボンベを使った発電機の動作確認 ②厚木市や愛川町と無線機で連絡 ③本部で情報を確認 ④団地会館前に設置された災害対策本部